

中長距離専門 LCC  
AirAsiaX を概観する (1/2)

2018年6月1日

1. エアアジアグループ； 近距離 LCC と中長距離 LCC

東南アジア最大の LCC として拡大を続けているエアアジアグループを俯瞰したのち、その中でも「中長距離 LCC 事業モデル」である「AirAsiaX」について概観しました。  
(エアアジアグループの IR 資料や CAPA データ等をもとにしています。)

エアアジアグループは、大きくは 2 つの企業群に分かれていて、全体は AirAsia 創設者であるトニー・フェルナンデス氏の直接、間接 (AirAsia グループ や Tune グループ 経由) の強い影響力のもとにある。

- ① AirAsia グループ；「小型機 x 近距離」の LCC 事業モデルの航空会社とその関連会社群から成る。 使用機材は A320 で、席数はエコクラスの 180 席  
AirAsia (マレーシア) を核に、合併で 5 つの国に系列航空会社を展開している。  
グループの総機数は 208 (2018.5) で、収入規模は 3,700 億円程度 (2016 年)。
- ② AirAsiaX グループ；「中大型機 x 中長距離」の LCC 事業モデルの航空会社とその関連会社群から成る。使用機材は A330 で、席数は 12 のプレミアム席を含む 377 席  
AirAsiaX (マレーシア) を核に、合併で 2 つの国に系列航空会社を展開している。  
グループの総機数は 31 (2018.5) で、収入規模は 1,800 億円程度 (2017 年)。

ここでは後者、特にその中核となっている「AirAsiaX」を中心に概観する。

Air Asiaグループ(近距離LCC)

		Air Asia	Thai Air Asia	Indonesia Air Asia	Philippines Air Asia	Air Asia India	Air Asia Japan	(計)
機数※1	機	87	59	23	19	18	2	208
収入※2	億円	1,881	1,049	329	258	140	2016年未就航	3,658

※1 CAPAデータ(2018.5)による

※2 2016Annual Reportによる(MRY=27.48円で換算)

Air Asia Xグループ(中長距離LCC)

		AirAsiaX	Thai AirAsiaX	Indonesia AirAsiaX	(計)
機数※1	機	22	7	2	31
収入※3	億円	1,254	317	202	1,773

} これについて概観

※1 CAPAデータ(2018.5)による

※3 2017Annual Reportによる(MRY=27.48円で換算)

## 2. AirAsiaX (AAX) の成り立ち

2007年に、VirginグループのR.Branson氏(20%)やOrix(10%)の出資も得て、中長距離LCC事業を開始⇒ゴールドコースト線を開設(当初機材はA340)。

中国、豪州、台湾と路線を拡げ、ロンドン線も開設(のち撤退)、機材をA330に入れ替えた。今後A330機材は-300型からneo型に切り替える(66機発注)とともに、A350も導入(10機発注)する

日本へは、2010年に羽田、2011年に関西、2015年には札幌に就航した。

2018年10月には福岡にも乗り入れる見込み。

2013年にマレーシア株式市場に新規上場した。

現在のCEOはDATUK KAMARUDIN MERANUN氏で個人株主として筆頭であるが、Tune社等の間接所有を含めれば、取締役のトニー・フェルナンデス氏が上回る。

Thai AAX、Indonesia AAXはいずれもAAXの持ち分が49%の現地国資本との合弁会社で、前者は2013年に、後者は2014年に就航した。

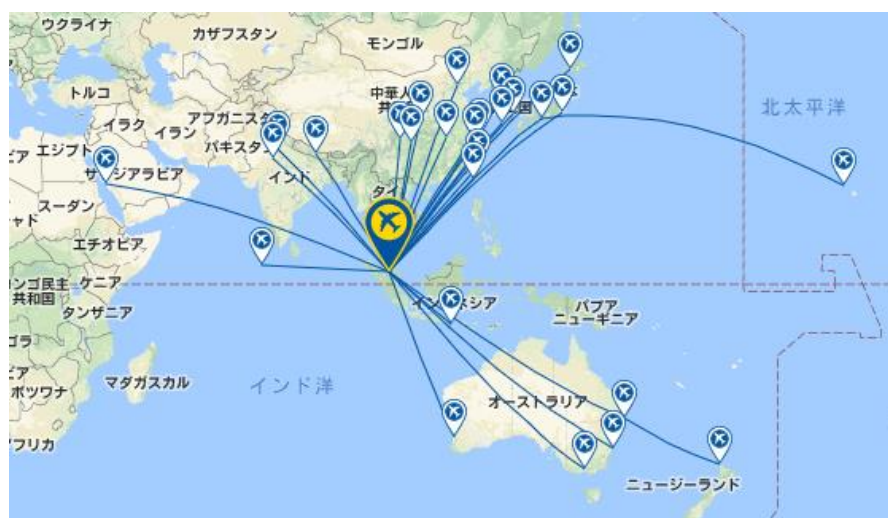
## 3. AirAsiaXグループ各航空社の路線；

### ① AirAsiaX；クアラルンプールをベースに29地点に就航

(日本) 3；羽田、関西、札幌 (関西経由米) ホノルル

(その他) 中国 7、韓国 3、台湾 2、豪 4、NZ1、インドネシア 1、

インド 2、ネパール 1、モルジブ 1、サウジアラビア 2、不詳 1



- ② **Thai AirAsia X** ; バンコク (LCC が多いドンムアン空港) をベースに就航  
 (日本) 成田、関西、札幌  
 (その他) 中国 1、韓国 1



- ③ **Indonesia AirAsia X** ; テンパサルとジャカルタをベースに就航  
 (日本) 成田 (その他) インド 1



④各社の日本路線 (2018.5)

各社とも日本路線への就航便数は多く、特に Thai AAX は 3 地点に毎日 5 往復を運航している。

		関西	羽田	成田	札幌	(計)
		往復	往復	往復	往復	往復
<b>AirAsiaX</b>	クアラルンプール	11	7		4	26
	ホノルル	4				
<b>Thai AAX</b>	バンコク(ドンムアン)	7		21	7	35
<b>Indonesia AAX</b>	ジャカルタ			7		9
	テンパサル			2		

以上